校長の生徒・先生応援日記 Vol.40

学びの匂い

うまくいかないことを楽しもう

突然ですが、始業式や終業式で皆さんの前に立つ私の姿は、どのように映っていますか。勉強や生き方などのテーマが多い講話を聴くと、さぞかし若い時も順風満帆な人生を歩んできたような印象を持つのではないでしょうか。何を隠そう、私はこれまで何かを成し遂げた経験は一度もなく、それこそ今に至るまで自慢できることなど一つもありません。それでも私なりに謳歌している人生だと振り返ることができるのは、日々の失敗が今の自分らしさを形づくっていると思うからです。今回は、思い通りとならなかった高校時代のエピソードを紹介します。バレンタインデーにちなんだ、ほろ苦さと甘さが入り混じった切ない恋ばなです。

角刈り、剃り込み、勉強も理解することなく気合いと根性で頭の中に叩き込む、これが硬派と粋がっていた私にも、思いを馳せた人がいました。入学後、好きなミュージシャンが同じだったことをきっかけに親しくなったクラスメイトで、笑顔の素敵なクラスのマドンナでした。共通の話題が多く、気が付くと心惹かれる存在になっていました。最新アルバムが出る度にレコードをレンタルし、曲をたくさん詰め込んだカセットテープをプレゼントしていました。これら全ての行動は、彼女の気を引こうとしているのではなく、そうです、この時期の審判が下る１日のために向けた努力であったのです。当時は、義理チョコの習慣がなく、意中の人から手渡されたチョコレートが恋愛成就を意味したため、全ての男子生徒がこのイベントを全集中で迎えたのです。

いよいよ当日を迎えると、朝から教室がざわつきます。４限目が終わった昼休み、なんとマドンナがみんなの前で私にチョコレートを渡してくれたのです。世紀のカップル誕生か！教室は息をのむほど静まり返りましたが、私は、周囲の驚きとは裏腹に「さっさと教室を出て行ってくれよ。」と祈るような思いでいました。残念ながら私の不安は彼女に届かず、「はい、おつり」小銭がチョコレートの上にそっと置かれると、まるでコントの様に四方八方から鞄や上履きが私めがけて投げられ、教室が笑いの渦に包まれました。マドンナの気持ちを知りたくて色々考えた末での作戦でしたが無残にも失敗に終わり、結局、私の思いを伝えられないまま卒業しました。素直に告白していれば実った恋かもしれませんが、この貴重な経験が片思いを決定づけたからこそ、今でも大切な思い出として残っています。

令和７年度も残りわずかとなり、春が待ち遠しい季節です。３年生は、進路実現に向けて猛勉強の最中でしょう。計画通りに勉強が進まず、時間ばかりが過ぎると自分だけがうまくいかない焦燥感に苛まれてしまうことがあります。でもよく考えてみてください。たとえ周りがそう見えたとしても、うまく「こと」が進んでいると実感できている人など一人もいないのです。

本コラムで紹介する私自身の生き方、思い出や過去の失敗談は、うまくいかない時こそ自分らしく生きることの大切さを示唆するものです。私の経験からも、むしろうまくいかないことを楽しむくらいの気持ちで過ごしてみれば、自分らしさを見つける貴重な経験になるはずです。

ある日の放課後、３年生にエールを送るつもりで夕暮れの誰もいない南校舎に足を踏み入れると、窓からは眩しいくらいに真っ赤な日差しが差し込んでいます。沈みゆく夕陽を見て、間もなく卒業を迎える生徒の姿と重なり、学び舎の匂いとなって私の気持ちを少し寂しくさせました。

今、夢や希望に溢れていても、この先、皆さんが思うほど、うまくいくような人生はないのかもしれません。それでも、校舎に染みついたクラスの仲間との時間は、確実に皆さんの中に残っているはずです。同じ制服で集まることはもうありませんが、みんな同じ空の下でそれぞれの道を歩んでいることを忘れないでください。

令和８年２月